NIE

年　組　名前

道新でワークシート

AI人材育て 課題解決

札幌に「道場」開設半年

ギョーザ不良品検出など3件成果

人工知能（AI）開発の人材育成を目指し「札幌AI道場」が昨夏に開設されてから半年。道内企業から提示された課題に対し、AIでどう解決するかを札幌のITエンジニアらが学ぶ形式で、これまでギョーザの不良品検出システムなど3件を開発。AI人材を養成しながら、地元企業の課題を解決する「地産地消モデル」が順調な滑り出しを見せている。（土田修三）

札幌AI道場の成果発表会には約100人の企業関係者らが集まり、開発事例の報告を熱心に聞き入った＝7日、札幌市内

道内の製造現場では人手不足を補うためAI導入の必要性が高まっているが、開発を担えるIT企業が少なく人材育成が課題。解決を目指し、札幌市や北大発ベンチャーでAI開発の調和技研（札幌）、AI研究の第一人者である北大大学院の川村秀憲教授らが昨年8月に「道場」を開いた。

まず、テンフードサービス（札幌）が展開する「みよしの」のギョーザや、水産加工の近海食品（釧路）のとろろの製造工程で発生する不良品検出などをAIで効率化する課題を提示。調和技研などのAI専門家が指導役となり、システム開発のSOC（札幌）などIT系10社の計18人の受講生が3チームに分かれてAI開発に挑戦した。

ギョーザの不良品チェックでは、皮が破れたり具材が皮に付着したりする不良品と、正常品の数十枚の画像データをAIに学習させ、できあがったギョーザの正常・不良の判定をスマートフォンのカメラ1台で行う簡易システムを開発。他の案件も含めて「約半年という短期間で、実用化一歩前の水準にまで仕上がった」（調和技研の中村拓哉社長）との評価を受けた。

今月7日には札幌市内で成果発表会が開かれ、川村教授は「地域の企業の課題に対して、地元のITエンジニアがAIを提供するモデルができた。1次産業や観光の課題にも挑戦したい」と意義を語った。

受講生は道場で得た技術をそれぞれの会社で生かすとともに、札幌市は道内外の開発案件を札幌などのIT企業が共同で受託する仕組みも検討している。

2023年2月9日（木）朝刊　全道版　13ページ（記事は再編集しています）

①「ギョーザの不良品検出システム」について具体的に説明している一文を本文中から探し、初めの５字を書き抜きなさい。

②「地産地消」とは具体的に何をすることですか。30字以内で書きなさい。